

第4期岐阜県障がい者総合支援プランの
策定に向けた障がい者(児)のニーズ調査の
実施状況について

障がい者(児)の将来の生活に関する正確なニーズを把握し、第4期岐阜県障がい者総合支援プランにおける施設入所者数の設定等の見通しを立てるため、全県的な規模でのアンケート調査を実施した。

1 障がい者に対する調査

障がい者との意思疎通に精通した相談支援専門員による、計画相談、モニタリングの場を活用した聴取調査(障がい者の生の声を直接聴く)を実施。

- ・対象者:障害福祉サービスの利用のために相談支援を利用している障がい者
- ・期間:令和4年7月22日～11月30日
- ・実施方法:一般社団法人ぎふケアマネジメントネットワークに委託
- ・調査人数:3,099名

2 障がい児に対する調査

特別支援学校に通う障がい児の保護者に対してアンケート調査を実施。

- ・対象者:特別支援学校児童・生徒の保護者
- ・期間:令和4年9月2日～10月31日
- ・実施方法:特別支援学校を通じて依頼文書を配布し、オンラインにて回答
- ・調査人数:1,122名(回収率:43%)



障がい者に対する調査結果の概要

全体	障害支援区分ごと			障がい種別ごと(重複あり)			
	区分なし	区分 1~3	区分 4~6	身体 障がい	知的 障がい	精神 障がい	発達 障がい
3,099人	1,124人	776人	1,199人	621人	1,855人	930人	157人

【今の生活について】

◎ 全体では、半数程度の方が「満足している」と回答。

◆今の生活について

	全体	障害支援区分ごと			障がい種別ごと(重複あり)			
		区分なし	区分 1~3	区分 4~6	身体 障がい	知的 障がい	精神 障がい	発達 障がい
満足している	47%	41%	50%	50%	49%	54%	34%	41%
不満である	11%	14%	13%	8%	10%	8%	16%	15%
満足でも不満でもない	27%	33%	25%	23%	29%	22%	34%	33%
わからない	15%	13%	12%	20%	12%	16%	16%	12%

- 障害支援区分ごとに見ると、区分1~3、4~6の方は、いずれも5割が「満足している」と回答。
- 障がい種別ごとに見ると、知的障がいのある方は、5割超が「満足している」と回答。

【今後必要なサービスについて(障害支援区分別)】 ※複数回答可

◎ どの区分でも、「いつでも相談できる場所や人」が必要と回答した方が最も多い。

◎ 重度の区分の方は、将来「入所施設」が必要と回答された方が5割以上。

◆生活に必要なサービス

※「将来」…将来、家族等からの支援を受けられなくなったとき

	区分なし		区分1～3		区分4～6	
	3年後	将来	3年後	将来	3年後	将来
いつでも相談できる場所や人	77%	79%	77%	80%	57%	57%
ひとり暮らしの体験や練習	23%	23%	17%	16%	12%	12%
緊急時に受け入れてくれるところ	27%	28%	31%	31%	37%	32%
養護者の休息のための受け入れ	9%	9%	11%	10%	20%	18%
グループホーム	19%	24%	33%	37%	31%	37%
入所施設	5%	9%	10%	14%	43%	52%
居宅介護等の訪問支援	14%	20%	32%	32%	18%	17%
通所の生活介護	5%	7%	12%	12%	36%	34%
通所の就労系事業所	58%	54%	44%	42%	14%	14%
移動支援の事業所	12%	14%	23%	23%	25%	25%
その他	12%	12%	11%	12%	10%	10%
回答者数(=n)	1,124人		776人		1,199人	

- 「いつでも相談できる場所や人」 :どの区分の方でも、必要との回答が最も多い
- 「緊急時に受け入れてくれるところ」 :どの区分の方でも、必要との回答が多い
- 「グループホーム」 :中度(区分1～3)、重度(区分4～6)の方は、3割以上が必要と回答
- 「入所施設」 :重度の方は、3年後は4割、将来は5割が必要と回答
- 「通所の就労系事業所」 :軽度、中度の方は、4割以上が必要と回答

【今後必要なサービスについて(障がい別)】 ※複数回答可

◎ どの障がい種別でも、「いつでも相談できる場所や人」が必要と回答した方が最も多い。

◎ どの障がい種別でも、「緊急時の受け入れ」が必要と回答した方が約3割以上。

◆生活に必要なサービス

※「将来」…将来、家族等からの支援を受けられなくなったとき

	身体障がい		知的障がい		精神障がい		発達障がい	
	3年後	将来	3年後	将来	3年後	将来	3年後	将来
いつでも相談できる場所や人	70%	72%	63%	64%	82%	83%	71%	74%
ひとり暮らしの体験や練習	11%	13%	18%	18%	18%	18%	28%	31%
緊急時に受け入れてくれるところ	37%	36%	34%	31%	27%	29%	30%	31%
養護者の休息のための受け入れ	19%	16%	17%	15%	9%	8%	12%	12%
グループホーム	22%	29%	33%	40%	21%	23%	19%	27%
入所施設	29%	38%	28%	35%	8%	11%	5%	10%
居宅介護等の訪問支援	32%	31%	17%	20%	21%	23%	17%	19%
通所の生活介護	27%	25%	26%	25%	7%	8%	7%	8%
通所の就労系事業所	25%	23%	33%	31%	50%	48%	45%	43%
移動支援の事業所	25%	25%	24%	25%	11%	12%	10%	14%
その他	12%	14%	9%	9%	12%	12%	14%	14%
回答者数(=n)	621人		1,855人		930人		157人	

- 「いつでも相談できる場所や人」 : どの障がいの方でも、必要との回答が最も多い
- 「緊急時に受け入れてくれるところ」 : どの障がいの方でも、必要との回答が多い
- 「グループホーム」 : 身体障がいの方(将来)、知的障がいの方は、約3割以上が必要と回答
- 「入所施設」 : 身体障がい・知的障がい方は、3年後は約3割、将来は約4割が必要と回答
- 「通所の就労系事業所」 : 精神障がい・発達障がいの方は、4割以上が必要と回答



障がい児に対する調査結果の概要

全体	学年ごと				障がい種別ごと(重複あり)		
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	身体障がい	知的障がい	発達障がい
1,122人	3人	480人	257人	382人	293人	1,065人	362人

【今の生活について】

◎ 小学部、中学部、高等部を通じて傾向はほぼ同じである。

◎ 「不満である」と回答された方は約1割。

◆今の生活について

	全体	学年ごと				障がい種別ごと(重複あり)		
		幼稚部	小学部	中学部	高等部	身体障がい	知的障がい	発達障がい
満足している	27%	33%	26%	28%	29%	27%	27%	22%
不満である	13%	—	13%	14%	13%	16%	13%	15%
満足でも不満でもない	36%	33%	36%	36%	37%	32%	37%	38%
わからない	23%	33%	25%	21%	21%	25%	23%	25%

○ 小学部、中学部、高等部とも、「満足」3割、「不満」1割、「満足でも不満でもない」4割、「わからない」約2割である。

【今後必要なサービスについて(学年別)】 ※複数回答可

◎ どの学年でも、「いつでも相談できる場所や人」が必要と回答した方が多い。

◎ どの学年でも、将来「グループホーム」や「入所施設」が必要と回答された方が約5割以上。

◆生活に必要なサービス

※「将来」…将来、家族等からの支援を受けられなくなったとき
※幼稚部については、少数のため未掲載

	小学部		中学部		高等部	
	卒業後	将来	卒業後	将来	卒業後	将来
いつでも相談できる場所や人	71%	64%	63%	60%	68%	73%
ひとり暮らしの体験や練習	34%	32%	35%	29%	38%	36%
緊急時に受け入れてくれるところ	58%	46%	62%	44%	37%	35%
養護者の休息のための受け入れ	55%	39%	54%	36%	32%	22%
グループホーム	43%	63%	47%	66%	37%	49%
入所施設	46%	70%	45%	72%	27%	45%
居宅介護等の訪問支援	33%	33%	30%	34%	22%	30%
通所の生活介護	44%	28%	34%	27%	19%	16%
通所の就労系事業所	68%	57%	61%	51%	54%	45%
移動支援の事業所	39%	41%	44%	47%	32%	35%
その他	3%	1%	3%	3%	3%	4%
回答者数(=n)	480人		257人		382人	

- 「いつでも相談できる場所や人」 :どの学年の保護者の方でも、必要との回答が多い
- 「緊急時」「養護者の休憩」のための受入 :特に小学部と中学部の保護者の方で、卒業後において必要との声が多い
- 「グループホーム」、「入所施設」 :どの学年の保護者の方でも、約5割以上が将来必要と回答
- 「通所の就労系事業所」 :どの学年の保護者の方でも、約5割以上が必要と回答

【今後必要なサービスについて(障がい別)】 ※複数回答可

◎ どの障がい種別でも、「いつでも相談できる場」が必要と回答した方が多い。

◎ どの障がい種別でも、「緊急時の受入れ」が必要と回答した方が4割以上。

◆生活に必要なサービス

※「将来」…将来、家族等からの支援を受けられなくなったとき

	身体障がい		知的障がい		発達障がい	
	卒業後	将来	卒業後	将来	卒業後	将来
いつでも相談できる場所や人	67%	62%	68%	66%	69%	66%
ひとり暮らしの体験や練習	25%	23%	35%	33%	36%	32%
緊急時に受け入れてくれるところ	59%	44%	54%	43%	53%	41%
養護者の休息のための受け入れ	58%	35%	49%	34%	50%	29%
グループホーム	32%	47%	44%	61%	43%	62%
入所施設	42%	69%	41%	64%	41%	65%
居宅介護等の訪問支援	40%	32%	29%	32%	28%	31%
通所の生活介護	50%	29%	34%	24%	31%	22%
通所の就労系事業所	46%	37%	62%	52%	64%	54%
移動支援の事業所	44%	40%	38%	41%	36%	43%
その他	4%	2%	3%	3%	2%	2%
回答者数(=n)	293人		1,065人		362人	

- 「いつでも相談できる場所や人」 :どの障がいの保護者の方でも、必要との回答が多い
- 「緊急時」「養護者の休憩」のための受入 :どの障がいの保護者の方でも、卒業後において必要との回答が多い
- 「グループホーム」、「入所施設」 :どの障がいの保護者の方でも、約5割以上が将来必要と回答
- 「通所の就労系事業所」 :知的障がい、発達障がいの保護者の方で、5割以上が必要と回答

第4期プラン策定に向けた大まかな方向性

障がい者(児)のニーズに応えるために

相談の場、緊急時の受け入れ等の場を設ける

- ◆市町村における基幹相談支援センターの設置、地域生活支援拠点等の整備の一層の促進と機能強化が必要。

安心して生活できる住まいの場を確保する

- ◆親亡き後の住まいの場として、グループホームを必要とする声が多い一方、重度の障がい者では半数が入所施設が必要と回答されている。
こうしたニーズを踏まえながら、将来の住まいの場の確保が必要。

社会参加のための環境を整える

- ◆軽度、中度の障がい者からは、就労系事業所の整備を望む声が多い。
就労の促進等により、社会参加のための環境整備が必要。

今後の予定

◆本調査結果の詳細(圏域ごとの調査結果等)を市町村に提供し、第7期市町村障害福祉計画及び第3期市町村障害児福祉計画における障害福祉サービス等の見込量等の設定の参考にさせていただく。

◆本調査結果に加え入所施設を巡る以下の状況を踏まえ、第4期プランにおける施設入所者数(目標)を設定する。

- ・待機者の状況 …… 入所施設の待機者調査の実施
- ・関係者の声 …… 県内障がい者団体等からの意見聴取
- ・地域の受け皿の状況 …… グループホーム、地域生活支援拠点等の整備状況の把握